わんりぃ

312号
2026/4

日中文化交流市民サークル'わんりぃ'
町田市三輪緑山 2-18-19　寺西方
〒195-0055　☎：044-986-4195
http://wanli-san.com/
E メール:t_taizan@yahoo.co.jp

雙城街夜市果物屋の朝：夜市と言いながらも昼もやっていたりする。観光本やサイトを参照すると朝 8 時から 16 時までを昼の部、24 時までを夜の部として紹介しているが、明け方 5 時くらいから開店する屋台もあれば逆に深夜 3 時以降も営業している屋台もある。また、昼夜で屋台の入れ替えがあり、時間ごとに違った顔をみせるとされるが、中には通しで営業している屋台もある。(ウィキペディアより)　（2026 年 1 月、台湾台北市にて　佐々木健之）

'わんりぃ' 2026 年 3 月号の目次は 20 ページにあります

薬膳のお話-12

食べ物にも「性格」がある(1)

趙 迪（ちょう てき）

——薬膳の基本「性味帰経」をやさしく知る

「体にいいと言われているものを食べているのに、なぜか調子が悪い」、「同じ食材なのに、人によって合う・合わないがある」——薬膳の相談を受けていると、こうした声をとてもよく耳にします。実はその理由の多くは、食べ物そのものが悪いのではなく、**今の体の状態に合っていないこと**にあります。私自身も以前は、「体にいい」と聞いたものを意識して取り入れていたのに、なぜか体が重く感じたり、しっくりこないと感じたりすることがありました。そのときは理由が分からなかったのですが、後になって振り返ると、**その時の自分の体に合っていなかっただけ**だったのだと気づきました。

中医学や薬膳では、食材を選ぶときにとても大切にしている考え方があります。それが、「**性味帰経**」です。少し難しそうに感じる言葉ですが、これは特別な知識というよりも、**食べたあとの体の感覚を言葉にしたもの**です。今回はこの「性味帰経」を、できるだけ生活に近い言葉でお話ししたいと思います。

◎「性」——体をどちらへ動かすか

まず、「性」についてです。「性」とは、食べ物の“体感温度”。つまり、**食べたあとに体が**「寒・涼・温・熱」**どちらの方向に動くか**という性質です。食材にはそれぞれ、体を温めたり冷ましたりする“方向性”があります。

少し大げさに言えば、「性」は、食べ物が体にどちらの方向に“スイッチ”を入れるか、そんなふうに考えると分かりやすいかもしれません。

◎「味」——体への働きのヒント

次に「味」についてです。薬膳でいう「味」は、単に舌で感じる味覚だけを指しているわけではありません。甘い・酸っぱい・苦い・辛い・しょっぱい、という五つの味には、それぞれ体への働きがあります。

酸味：引き締める、漏れを防ぐ
苦味：余分な熱や湿を外へ出す
甘味：補い、緩め、安心させる
辛味：巡らせ、発散させる
塩味：柔らかくし、潤す

たとえば、疲れているときに甘いものが欲しくなることがあります。それは、体が甘味を欲しているサインです。こうして見ると、「味」は単なる好みではなく、**体の状態を映し出すヒント**とも言えます。日々の食事の中で、「今日はどんな味が心地よいか」を感じてみることも、小さな気づきにつながっていきます。

◎「帰経」——体の中の“担当分野”

「帰経」とは、なじみのない言葉ですが、簡単に言うと、**その食材が体のどの部分・どの働きを主に助けるか**という考え方です。同じ「体にいい食材」でも、どこを中心にサポートするかはそれぞれ異なります。体の中には、それぞれの働きを担う“担当分野”があり、食べ物にもまた、得意なサポート先がある——そんなイメージでとらえると、分かりやすくなります。

◎性・味・帰経は、いつも一緒に考える

薬膳では、性・味・帰経を**切り離さずに考えます**。ここで大切なのは、「体にいいから食べる」ではなく、「今の自分に合っているかどうか」を見ることです。私自身の体験からも、この小さな違いだけでも、体の負担は大きく変わってくると感じています。

◎同じ人でも、必要なものは変わる

もう一つ、大切なことがあります。それは、同じ人でも、季節や体調によって必要な食材は変わるということです。季節や年齢によって食の好みが変わることもあります。薬膳は、「正解のメニュー」を決めるものではありません。そのときの体と相談しながら、少しずつ整えていくための知恵です。完璧にできなくても大丈夫。その日の体に少し目を向けることが、すでに大切な一歩になっています。

最後に、体は、いつも小さなサインを出しています。何を食べたいと感じるか、食べたあとにどう感じるか。そのひとつひとつが、体からのやさしいメッセージなのかもしれません。

薬膳でいう「性味帰経」は、それに気づくためのヒントです。

中国そぞろある記―(7)

はじめての西安(3)

文と写真＝村上直樹

2024年11月、私は河南省安陽市を旅行し、「殷墟遺跡」あるいは「中国文字博物館」で「甲骨文字」（または「甲骨文」：通常「こうこつぶん」と読まれるが、この文は文字のことだから「こうこつもん」が正しいのではないか）についてやや詳しく知る機会を得た（『わんりぃ』2025年1月～7月号参照）。甲骨文字とは亀の甲羅あるいは牛の肩甲骨などの動物の骨に刻まれた文字であり、現在までのところ最古の「漢字」とされる。亀の甲羅等はもともと古代の王が神に問いかけてその行いを決める占い（占卜）に用いられていた。具体的にはそれらを火で炙り、出来た割れ目の形状によって吉凶を判断する。紀元前13世紀、殷代（商代）後期になるとそのような使い方に止まらず、そこに文字（甲骨文字）を刻することによって占いの時期、内容、結果等（「卜辞」）を記録するようになった。1899年、北京で偶然発見され、その後、河南省安陽市小屯村における殷墟遺跡の発掘調査によって甲骨文字の刻された甲骨片（多くが欠片（かけら））が大量に出土した。現在までにその数は16万余りに上り、そこには約4,500の文字が確認されて、その内約1,500字が解読されている。

殷(商)はB.C.1046年、紂王が周武王に敗れたことで滅び、その後B.C.771年まで続く西周に王朝が改まった。文字(漢字)の歴史としては、周代は「金文」(青銅器に鋳込まれた文字)の時代であるが、西周の初期には甲骨文字も用いられていた。周文化の発祥の地は「周原」と呼ばれ、現在の陝西省宝鶏市扶風県と岐山県に跨る地域に当たる。周原遺跡の考古学的発掘調査は1950年代後半から本格的に始まり、青銅器をはじめ陶器、玉器などさまざまな文物が発見された。とくに甲骨文字関連では1977年に17,000余片の卜骨（占いに用いられた獣骨）と卜甲（同じく亀の甲羅）が出土し、その内200片以上の卜甲に甲骨文字が刻まれていた。

最近では2024年に同遺跡で見つかった建築群により、この地が殷(商)王朝を滅ぼす以前の周人の都邑(とゆう＝都城)であったことが明らかになった。卜甲と卜骨200片以上も新たに発見され、295文字の西周甲骨文字による文章が解読された。その内容は天文暦法、歴史地理、軍事戦争などに亘っており、歴史的価値が高い。「秦人」の記載もあり、これは「秦」の文字の最も早い時期の出現である。この西周甲骨文字を含む周原遺跡の発掘成果は「2024年度全国十大考古新発現(発見)」に選定されている(2025年4月23日付『新華網日本語』)。

こうした周原遺跡の発掘成果を公開している施設として「宝鶏周原博物院」があることを知ったので今回の陝西旅行中に見学することにした。(2025年)12月2日、中国人の友人と「西安北」站(駅) 9：10始発のD2719号に乗り、10：05「宝鶏南」駅着。すぐタクシーをチャーターして12：00ごろ宝鶏周原博物院に着いた(写真)。3,400平米の敷地に西周代の建築物が復元されていた。入館は無料。貴重な出土文物の中に、占いに使用された痕跡のある甲骨片は展示されていたものの、残念ながら、西周甲骨文字の書かれたものは見当たらなかった。

展示館の外に出ると、敷地内に事務棟と思われるビルがあった。出てきた女性に、甲骨文字に関心があって日本から来た、と告げると、その女性は身内が東京に住んでいるそうで、この近くに別の「岐山県周原博物館」があるので、そこなら所蔵・展示しているかもしれないと親切に教えてくれた。

早速、タクシーで行ってみると、この博物館はごく小さな建物でしかも門の扉が閉まっていた。ただし、

「宝鶏周原博物院」(2025年12月撮影)

「御用のある方はこちらへ」と電話番号が記されていたので掛けてみると、どこからか人が現れ、鍵を開けて案内してくれた。展示室内は新しく整備されてはいたが、展示物はごく少なく、貴重な文物はないように見受けられた。期待していた、文字の刻まれた甲骨片もなかった。こうして、この日は3000年前に栄えた周原の地を踏むという得がたい体験はできたものの、西周甲骨文字を見るという目的を達することはできなかった。なお、帰国後『百度百科』で確認すると、2022年11月に岐山県周原博物館と宝鶏周原博物院は組織的に統合されたそうである。

翌日の 12 月 3 日は友人と別行動で、私はまず市内の「八路軍西安弁事処記念館」(西安八路軍弁事処旧跡) へ行ってみた。ここはかつて「七賢荘」と呼ばれていた建物で、1937 年 8 月より八路軍の施設となり、新中国成立後、1959 年からは記念館として公開されている。「七賢荘」の名称は、魏晋時代のいわゆる「竹林七賢」が由来である。「全国愛国主義教育示範基地」に指定されており、学生など何組かの団体が見学に来ていた。複数の展示室があり、「大道共行：抗戦時期的国際友人与七賢荘」という部屋では、『中国の赤い星』で知られる米国人ジャーナリスト、エドガー・スノーとその妻、ヘレンをはじめ、中国における抗日・反ファシズム戦線に参加した外国人を紹介していた。日本人では、抗日戦争中、延安で反戦運動に従事していた野坂参三（元日本共産党名誉議長）が取り上げられていた。なお、スノー夫妻については、別途、特別展示室でその功績が讃えられていた。

近現代史における西安というと、すぐ思いつくのは「西安事変」である。西安事変とは 1936 年 12 月 12 日に張学良と楊虎城が蒋介石の滞在していた西安の華清池(華清宮)でクーデターを起こし、拘禁した蒋介石に抗日のための第二次国共合作を迫って、民族統一戦線の形成を実現した事件である。西安市内にも関連施設・旧跡が複数存在し、それらはまとめて「西安事変記念館」と称され、保存・公開されている。そのうちの 1 つ「楊虎城将軍記念館」(西安事変旧跡・楊虎城別墅) を参観した(**左下写真**)。「止園」と呼ばれるこの別墅(別荘)内は当時の部屋が復元されており、楊虎城の生涯とその功績を紹介する資料が展示されていた。「会客室」は西安事変後の 12 月 18 日に周恩来が事変の平和的解決を話し合うため楊虎城と会見した場所である。楊虎城は抗日戦争勝利後に続いた国共内戦の中で、重慶において国民党の特務により惨殺されてしまう。私は今から 21 年ほど前の 2005 年 3 月、重慶を旅した際「歌楽山烈士陵園」で「楊虎城将軍殉難処・楊虎城将軍被害遺体密葬原跡」という施設を見たことがある(**上写真**)。楊虎城は 1949 年 9 月 6 日にこの場所で幼な子(楊拯中)とともに惨殺され、松林に埋められた。しかし、まもなく 1949 年 11 月 30 日に重慶が解放されると、12 月 1 日にはその遺体が発見され、出生地の陝西省長安に安置された。「止園」におけるパネル展示では、同年 12 月 16 日に中国共産党中央委員会が発した遺族宛ての弔電文が紹介されていた。当初の予定ではつづいて「西安事変記念館・張学良将軍記念館」を見学するつもりだったが、生憎(あいにく)、降雨災害からの復旧工事中のため臨時休館しており果たせなかった。

「楊虎城別墅」(2025年12月撮影)

重慶「楊虎城将軍殉難処」(2005年3月撮影)

■**参考資料**：『百度百科』,『地球の歩き方：西安他』(2019 年 11 月版)他。

⌘ 晩秋のカラコルムにて（13）⌘

ウランバートルへの帰路よもやま(3)

吉光 清

モンゴルの伝統楽器と言えば「馬頭琴」である。生演奏を初めて聴いたのは「箱根ガラスの森美術館」だった。内モンゴルから来日し、日本で活躍中の演奏家によって、毎週水曜日に数回の短い演奏会が開かれている。各回 15 分間ほどの短い時間であるが、その優しい音色は哀愁を感じさせ、遥かな大草原を髣髴とさせる。一方で、馬のいななきを思わせるダイナミックな奏法も印象に残った。

「草原のチェロ」とも呼ばれるように、弓で演奏する「擦弦楽器」で、その棹の先端は馬の顔をしており、木製の四角い胴体(共鳴箱)と 2 本の弦、弦を支えて音程の微調整を行う上下の駒、から構成されている。胴体には左右対称な「F 字孔」が見られた。

モンゴル語で「モリンホール(馬の楽器)」の名称を持つ、この楽器は草原の遊牧民の祭りや歌の伴奏に利用されてきたが、2003 年に「ユネスコの無形文化遺産」に認定された。そのこともあり、「馬頭琴」を主とした演奏会も行われるようになっている。

ウイキペディアに拠れば、13、14 世紀に書かれたモンゴルの歴史書が中国語に翻訳された『元朝秘史』には、既に馬頭琴奏者が登場し、馬の頭の飾りも存在していた。現在は、「中国・内モンゴル自治区」と「モンゴル国」とでは、材質・構造・装飾などのほかに、音程や調弦にも違いが見られると言う。

外国由来の楽器にも拘わらず、なぜ、「モリンホール」ではなく、「馬頭琴」と呼ばれてきたのかを考えると：「モンゴル国」は遠い「シベリア抑留の地」であっただけで、1990 年のモンゴル民主化・市場経済化以前には文化的な交流は存在しなかった。一方、1972 年の日中国交正常化以降、「内モンゴル」の文化が中国文化の一部として日本に伝わり、その際に「モリンホール」と、その漢訳語が伝えられて来たということであろう。日本では、実物の外見がそのまま表現された漢字名の『馬頭琴』が圧倒的な有利さで定着したということであろう。

「モリンホール」
（ウイキペディアより）

■ふたこぶラクダとノンビリ（往路の回想）

今回の「ラクダ乗り」では、時間を気にして急かされることも無く、ラクダをゆっくり眺め、身体に触れてみることが出来た。

ラクダたちは全部で 20 頭ほどで、のんびりと待機していた。少し離れた場所では、お腹を地面につけたまま大人しくしているラクダたちもいる。

ラクダたちが熱い砂の上でも平気で腹這いになっているのは、皮膚が分厚く角質化した「胼胝（たこ）」が前脚の付け根、後脚の膝、胸の 5 か所にあり、断熱性が高く、ここを接地して座れば高温の影響を余り受けずに休めるということである。

腹這いになっているラクダに近づいても警戒する素振りは全く無い。大きな目と長いまつ毛が可愛らしく、ノンビリしていて、間が抜けているような顔つきと表情に見える。座っている姿や口を動かすなどの仕草にも愛嬌を感じさせ、人懐っこく、従順であり、凡そ人に脅威を与えない動物だ。

ただし、発情期や興奮した時は攻撃的になり、恐怖に駆られた時は猛スピードで駆け出すので、その後で行方を探し、連れ戻すのが大変だという話を本で読んだことがある。

ウイキペディアに拠れば、「『背中のこぶ』の中は『脂肪』で、エネルギー源を蓄えるだけでなく、断熱材として働き、体温が日射によって上昇し過ぎるのを防ぐ役割もある」、「一度に 80 リットルから 136 リ

こぶの間にマット（鞍）を置かれ、ノンビリと待機中のラクダ

腹這いになったラクダとスキンシップ

ットルもの水を飲むが、血液は大量の水分を含んだまま循環して、他の哺乳類のように赤血球が破壊される（溶血）ことは無い」、「水の摂取しにくい環境では、34～38 度の体温を 40 度くらいに上げて、極力、水分の排泄を防ぐ」、「ラクダの祖先は 200 万年から 300 万年前に北アメリカから『ベーリング地峡』を通ってユーラシア大陸へと移動し、現在のラクダへと進化した」、「“ひとこぶラクダ”の家畜化はおそらくアラビアで行われ、そこから北アフリカ、東アフリカなどへと広がった。“ふたこぶラクダ”の家畜化はイラン北部からトルキスタン南西部にかけて行われ、そこからインド、中国へと広がった」、「ラクダは『砂漠の舟』とも呼ばれ、20 世紀後半に自動車が普及するまで、他の使役動物では越えることのできない乾燥地域で、ほぼ唯一の輸送手段となっていた」、「アラビアでは紀元前 500 年ごろ以降に、新しい設計の鞍が現れたことによって騎乗戦闘が可能となった」とのことである。そう言えば、映画『アラビアのロレンス』では、ロレンスがラクダ部隊の先頭に立って、敵陣に突撃してゆくシーンがあったと記憶している。

■掘り抜き井戸とタンポポの花（往路の回想）

此の地での「ラクダ乗り」の営業は、観光客から予約を受けて、複数の飼い主がそれぞれ飼っているラクダたちを連れて来て、予約客が現れる頃にラクダ

「掘り抜き井戸」と汲み上げられた水を飲むラクダたち

のこぶの中間に客の「騎座」となるマット（鞍）を置いて、お客を乗せたら、手綱を曳いて周辺を一周するというシンプルな形だった。

荒地に咲いていたタンポポ

周辺には観光客のための施設や建築物は何も見当たらない。ただ、掘り抜き井戸が一つ掘られており、そこから汲み上げた水を、大型車両のゴムタイヤから切り出して作った水飲み場に注いで、ラクダたちに飲ませていた。地表は乾燥して草原が無くなっていても地下には水脈があるらしい。

お客のための唯一の設備として、遠く離れた場所にポツンと一つだけ建っていたものがあった。日本では建設現場などに臨時に設置される箱型の簡易トイレである。「ラクダ乗り」の場所の近くには身を隠せる樹木や岩陰は無いので、団体ツアーでやって来たらしい、ドイツ語を話していた女性たちには大変に貴重な設備だったかも知れない。

乾いた地面にタンポポのロゼット葉が張りついて一輪だけ花を咲かせていた。

■「ハーン・リゾート」に向かって

16 時を回り、ドライブインを後にした。今晩の目的地の「ハーン・リゾート」まで、あと 130 キロほどだと聞かされた。

ガイドブックを見ると「ハーン・リゾート」は「モンゴル初の草原に佇むラグジュアリーリゾート、客室ゲルはすべてがガラスオーシャンフロント。中央のバスルームから草原や降り注ぐような星空を見渡せる。豪華フランス料理や専任セラピストによるマッサージを楽しめる」と書かれていた。今回の旅行に対し、当初、期待した事項ではないことも含まれていたが、やはり、それなりに期待が膨らんだ。

途中、警察の検問所があったが何事も無く通過した。物資の輸送車両が許可証を持っているか、スピードオーバーをしていないか、密輸品を運んでいないか、などをチェックしているのだという。

運転スピードの遅い車に追いついては、対抗車線を確認して追い越しを重ねて先を急いだ。（つづく）

●資料：
・「地球の歩き方　モンゴル」（2024 年～2025 年版）
株式会社 地球の歩き方

四川省･カム紀行-4

年保玉則

写真と文：呉　霞

学生の頃、甘南のラブラン寺というチベット仏教のお寺に行きました。そこでとてもかっこいいラマ僧に出会いました。彼は私たちと欧米からの観光客のガイドで、お寺でとても優秀な学生でした。漢語と英語がとても上手で、お寺の歴史やチベットの文化を説明してくれました。私はすっかり彼に心を奪われました。今でも彼の笑顔をはっきり覚えています。

彼がチベットの歴史を話すとき、『ゲサル王伝』という口伝えの物語をよく話題にしていました。これは、神様が天から降りてきて、悪魔に苦しめられている人々を助ける話です。その中でよく出てくる場所が「ニェンポ・ユルツェ」という山です。ゲサル王を守る神様の山です。そこには、ゲサル王の二人の美しい妻に例えられた「仙女湖」と「妖女湖」という湖があります。この場所は「四川西部の最後の秘境」と言われていて、私はずっと行ってみたいと思っていました。

私は甲居チベット村を出発し、アワンカンの広い草原を通り、標高 4200 メートル以上の山道を越えて、四川西部の最後の秘境に入りました。道中、ほとんど人には会いませんでした。低い雲と、ところどころにいるヤクだけが見えました。漢族の人々やその文化の気配もほとんどなく、「ゲサル王の世界」に入ったように感じました。

伝説では、ニェンポ・ユルツェの山の神は戦士になってゲサル王を助け、湖の精は知恵を与えてゲサル王を支えたと言われています。今でもチベット暦の

花のじゅうたん

大切な祭りの日には、周りの康区（カム）から多くのチベットの人々がここに来て、山と湖をまつります。彼らは山のふもとで「煨桑（ウェサン）」という儀式をします。ゲサル王の文化には、神秘的な考え方、自然を敬い、邪悪を退ける気持ちなどがあり、チベット仏教やボン教、そして民衆の信仰が混ざり合った、特別な形をしています。

ニェンポ・ユルツェに着いたとき、ずっと続いていた青空が急に変わりました。遠くから黒い雲が近づいてきて、空には丸い「穴」だけが残りました。そこから太陽の光が差し込み、遠くの山の頂上だけを照らしました。遠くには雪をかぶった山々が続き、何か神秘的な力が伝わってきました。チベットの人々はここに石を積んだ塔や、ヤクの頭の骨を置いていました。8 月なのに気温はたったの 6 度。天気は曇り、風が吹いて、とても寒く感じました。

花のじゅうたんのような草原を歩いて、神聖な仙

アワンカンの広い草原

ニェンポ・ユルツェ

「煨桑(ウェサン)」という儀式

女湖に向かいました。湖のそばには、高さ 6 メートル以上の旗の塔があり、色とりどりの旗がたくさん飾ってありました。チベットの信仰では、青は空、白は雲、赤は火、黄色は大地、緑は水を表しています。五色の旗にはチベット文字でお経が書かれていて、風に揺れる旗がお経を唱え、願いを天に届けると言われています。

仙女湖のそばに着くと、数人のチベットの人々がレンガの塔の周りを回っていました。何かを唱えながら、時々、塔に向かって白い紙の切れ端をまいていました。私はしゃがんでその紙を一枚拾いました。タバコの箱より少し小さくて、チベットの仏様の絵が印刷されていました。誰も話をしません。そこには、静かな山々、静かな湖、煙の立つ塔、真剣な様子の信者たち、風に舞う紙の切れ端、厚い雲の間から差す光、そして草の上を歩く足音だけがありました。この光景は何も語りませんでしたが、見る人の心に深く響くものがありました。それは、自然への敬い、遠い昔の先祖への敬い、正義や悪を倒す力への敬いでした。この物質的な競争の世界で、人は心の奥で何かを信じることで、心の静けさを得られるのかもしれないと感じました。

ニェンポ・ユルツェはチベットの人々の聖地として、2018 年 4 月に閉鎖され、観光客はもう行けなくなりました。ほとんどの施設がなくなり、道も閉じられ、この聖地は天と地に、神様の世界に戻されました。この知らせを聞いたとき、私は自分が行ってこの感動を経験できたことに、少しだけラッキーだと思いました。でもそれ以上に、感動しました。私たちは現実の社会に追われていますが、心を純粋にし、本当に敬う気持ちを持てる場所をしっかり守ることも大切だと、そう思ったからです。

■年保玉則は、中国青海省ゴロク・チベット族自治州のジグデ県にあります。山脈は四川省との境に近く、青海省と四川省、それに甘粛省の三つの省が接する場所に位置しています。

台北で雨のハイキング（2）九五峯・南港山・象山

文と写真＝佐々木健之（たけし）

2026 年 1 月 1 日も朝から雨模様だった。この日は、尾根歩きで九五峯～南港山～象山をつなぐハイキングだ。ガイド本だと MRT（Mass Rapid Transit の略この文では時に地下鉄と表記）象山駅からスタートだが、帰りの交通が面倒になると思い、逆方向からの登山とした。ホテルを出ると昨日と同じ運転手のタクシーが止まっていたので乗り込む。登山口の「中華科技大学」まで料金 300 元。

大学の門で下車すると、警備員詰め所の建物が有っておじさんが一人詰めていた。校内には自由に出入りができるようなので、とりあえず様子見で中に入った。門内は校舎の建物が路地を作っていて、こんなところに登山口があるようには見えなかった。しかし入り口に近い校舎の角を右に曲がると別の門扉が無い校門があって、そこにはバス停と対面の建物にトイレがあった。

バス停の脇に駐車しているオートバイが道をふさいで分かりにくかったが、登山口の階段とコース案内の看板を見つけてホッとやれやれ。出発は 8 時 40 分、時々止むこともある小雨だった。

登り始めの印象は階段が苔むしているし、陰気で暗い印象だったが、すぐに開けた明るい感じの道になった。道と言っても、石段と石畳が交互に続いていて、「土」の部分は無かった。このコースでは「土」を踏むことが無いのは下山するまで変わらなかった。

40 分ほど行くと道教の廟、「獅園福徳亭」があった。人の気配がして、二人のおじさんがお参りの最中だった。日本でいうと「初詣」か。ひとしきりあいさつを交わして出発。道の両側には赤い花が盛りだった。帰ってから調べると「鶏冠爵床」という名前の灌木で中央アメリカ原産とのこと。学名日本名はベニツツバナ(紅筒花)、台湾、広東省、福建省に広く分布しているそうだ。

歩き始めの風景、石畳が続く

道教の廟、獅園福徳亭。初詣？の人が居た

登山アプリ、ヤマップで記録した歩行跡。7.3km、所要時間 4 時間 35 分

さらに進むともう一つ廟が現れ、今度もおじさん二人。お参りと登山運動を兼ねているようだ。一人の人が我々に何か叫んだがよくわからなかった。別れて数歩進んでから、意味が伝わった。「新年快楽！(xīn nián kuài lè)」お正月の挨拶だったのだ。

時折すれ違う人と出会うようになった。その人たちは台湾でよく使われる「お早う」に当たる「早(zǎo)」ではなくて、「新年快楽！」とあいさつされた。

台湾名鶏冠爵床、日本名ベニツツバナ（紅筒花）が多い

九五峯

9時45分に「福徳宮」というお休みどころを兼ねた道教の廟で一休み。ところどころにある休憩施設には、小さい丸石を並べて埋め込んだひと隅があって、はてこれは何だろうと思った。どうやら裸足または、靴底の薄い靴で歩いてツボを刺激する仕掛けらしい。見かけた物は少しの長さしかなかったが、街中に作ったものはもっと長い。名付けて「健康歩道」というらしいが最近はあまり人気が無いようだ。

10時40分、誰もいない「九五峯(375m)」に到着。帰国してからのネットの説明によると、1976年に数え年 95 歳の台湾軍元将軍が登頂したことに由来して、「九五峯」と名付けたとか。展望が開けて雨は止み、曇り空。高層ビル「台北101」が低い雲で頭を隠しているのが間近に見えた。

続いてすぐに「南港山」に着いたのだが、電波塔を囲む金網の脇に三角点があるだけで趣が無かった。

近くに「福徳山荘」と名がつくお休みどころがあるはずなのだが、後で思うと案内板にトイレと書いてあったところが入り口だったのだ。トイレだけの入り口かと思い、行き過ぎてしまった。

そんなわけで休みそこなってしまい、階段交じりの道を疲れた体で進んだ。前に述べたように、コース全体がしっかりした敷石と階段なので歩きづらいかと思ったが、そうでもなかった。階段は好きではないのだが、昔エスカレーターが無かったころのデパートの階段のように踏み板幅が比較的広く、蹴上の高さがほどほどなので比較的歩きやすかった。登山者の中には裸足で歩く人もいて驚く。偏見だがこの手の人は、ちょっと近寄りたくない雰囲気を持つ男性が多い。すべて石造りの路面で、砂利や泥んこが無いから裸足も可能だが、実際に裸足で歩くこととは別だ。彼らは健康志向の「健康オタク」かな。

ガイド本では、途中に「拇指山」という展望が良い岩峰があって立ち寄るようになっている。けれども往復コースだし、雨も降っているので割愛した。

12時30分「象山(184m)」到着。我々の歩いたコースは南港山縦走親山歩道なのだが一部「四獣山歩道」と重複している。「四獣山歩道」とは象山、虎山、豹山、獅山のケモノ4種類の名を持つ山を繋いだコースである。私らが行ったのは「象山」だけだが。

象山は、街から 40 分ほどで登れるので家族連れや、若者のグループで賑わっていた。なぜか白人のグループを多く見た。山頂一帯は、公園風になっていて、東屋やベンチ、トイレなどが整っていた。

下山路は、岩の間を抜けたりするところもあり、結構急な階段が続く、高度感のある下山路だった。この付近では1段の段差が高く、バランスを崩して踏み外すと真っ逆さまに転落の恐れがあり、慎重に下った。13時50分、登山口に降り立つと、そこは市街地の一角だった。

昼食は下山してから飲食店に入るつもりだったが、最初に見かけた軽食堂は外観目視判定の結果不可となり、「MRT 象山駅」の方に行けばきっと良い店があるだろうと空腹をなだめて歩いた。ところが駅までの通りは、右側は公園、左側はタワーマンションが林立する高級住宅街で、商店街や飲食店は無く、「正月豪華ランチ」の心づもりは裏切られた。

MRT 象山駅に着いたが、ここにも駅前商店街は無

台北 101、上部は雲に届く

象山山頂。遠景の外観が象に似ているという。

かった。どこかで食事をしてホテルに戻ろうと考えた。けれども象山駅付近から出発するバスはホテルには行かない。したがってホテル前を通るバスに乗る必要がある。

前もっての勘案で効率を考えると、象山駅からさらに 20 分ほど北に行ったところの「市政府駅」から地下鉄に乗り、最寄りのバス発車駅「南港展覽館駅」まで行って、そこからバスに乗るのが良いと思った。しかし私が勘違して「南港展覽館駅」で下車しても乗る予定のバス路線は無かった。間違いに気づいたが、まず腹ごしらえ。地下鉄の駅が「南港展覽館」という大きな建物で、そこの 1 階の歩道に面した、ちょっと高めの自然食屋さんで、パン食ランチ 250 元を食べた。結構うまかったが、思い描いた 1 月 1 日の豪華ランチとは違ってしまった。

再び地下鉄に乗り、「市政府駅」まで戻り、出口の階段を上がると折よくやってきた 912 系統のバスに乗った。これでホテルのある「萬順寮」バス停まで帰ることができる。「萬順寮」とは大学の寮でもあるのかと思ったが、台湾では歴史的地名に「寮」をつかう

MRT 象山駅。付近にお店は何もない

ことがあるそうだ。

台北（台湾全体か）のバス事情だが、路線ごとに 3 桁や 2 桁の数字が割り当てられ、行き先表示よりも数字番号が前面に特大表示。利用者は路線番号を見て乗車する。やってくるバスの番号だけ確認すればよい。主なバス停には、接近するバスが到着するまで約何分と表示されている。日本のバスのように、目を凝らして行き先表示の文字を確認しなくてよいので安心だ。日本のバスでも○○系統と番号を入れてあるが、数字の表示はちょっと小さめだ。

ホテルに戻ると、預けていた荷物を持って、客待ちをしていたタクシーに乗る。また同じ車で、この運転手のタクシーに乗るのは 3 度目となった。この日は台北市内のホテルに移動するため、数時間前にそばを通った「象山駅」まで乗車。運転手は心得ていて、地下ホームへ行くエレベーター前で止めてくれた。地下鉄に乗り「圓山駅」まで行った。

「圓山駅」からトランクを引いて、幹線道路わきの歩道を歩く。次の宿「欧華ホテル」を探して、持参した地図を眺めていると、通りかかった品の良さそうな容姿の高齢台湾女性に呼び止められた。日本語で。

彼女の物語は日本人の男性と結婚していて、東京に住んでいた。けれども彼が数年前亡くなってしまい、今は戻って台北住まいとのこと。台湾訛りが無い自然な日本語を話した。彼女は、トランクを引いて歩く土地不案内のおぼつかない老夫婦を見かけて、声をかけた次第だった。台湾夫人の手助けで、「欧華ホテル」はすぐに見つかり、ついでに夕食の店も教えてもらって一安心となった。　　（続く）

漢詩の心を日本語で(1)

「月下独酌」李白

本田 幸枝

皆さん、漢詩の七語訳をご存じですか？
今風の漢詩の日本語訳を会員の本田幸枝さんが、紹介してくださいます。どうぞお楽しみください。

■はじめに

今回は「花間一壺の酒」から始まる李白の詩を紹介します。この詩は、私の大好きな「Thunderbolt Fantasy 東離剣遊紀」という日本・台湾共同制作の人形劇のドラマ CD に一部引用されており、私が漢詩に興味を持ったきっかけのひとつです。まずは眺めてみてください。

【原詩】月下独酌・其一　李白

huā jiān yī hú jiǔ　dú zhuó wú xiāng qīn
花间一壶酒　独酌无相亲
jǔ bēi yāo míng yuè　duì yǐng chéng sān rén
举杯邀明月　对影成三人
yuè jì bù jiě yǐn　yǐng tú suí wǒ shēn
月既不解饮　影徒随我身
zàn bàn yuè jiāng yǐng　xíng lè xū jí chūn
暂伴月将影　行乐须及春
wǒ gē yuè pái huái　wǒ wǔ yǐng líng luàn
我歌月徘徊　我舞影凌乱
xǐng shí tóng jiāo huān　zuì hòu gè fēn sàn
醒时同交欢　醉后各分散
yǒng jié wú qíng yóu　xiāng qī miǎo yún hàn
永结无情游　相期邈云汉

【書き下し文】月下独酌・その一　李白

花間　一壺の酒
独り酌んで　相い親しむもの無し
杯を挙げて名月を邀え
影に対して三人と成る
月　既に　飲むを解せず
影　徒らに　我身に随う
暫く月と影とを伴って
行楽　須らく春に及ぶべし
我歌えば　月　徘徊し
我舞えば　影　凌乱す
醒時　同に交歓し
酔後　各々分散す
永く無情の遊を結び
相期す　邈なる雲漢に

【七五訳】つきよの　ひとりざけ

はなの　あいだに　さかつぼを
ひとつ　かかえて　ひとりざけ
こんな　ときには　さかずきを
あげて　さそおう　つきとかげ
つきは　のまんし　かげのやつ
なにを　するにも　おれのまね
だけど　さんにん　あつまれば
どうだ　たのしい　はなみざけ
うたえば　つきが　みぎひだり
おどれば　かげが　ちどりあし
ほろよい　どきは　あつまって
よいどれ　あばよ　ばらばらに
うきよ　はなれた　おまえらと
あまの　かわらで　またじかい

■七五訳について　～「うた」の魅力～

漢詩は「うた」です。しかし当時の言葉のため、現代中国語ができたとしても、そのまま理解することは難しいと聞きます。まして日本語話者には日本語訳が必須ですが、散文で「うた」を

味わうには手間がかかります。七五訳は「うた」を「うた」としてダイレクトに味わうという試みの一つです。「わからない」、「小難しい」ではなく、「こんな詩があったんだ」とか「こんな解釈もあるんだ」とか、「面白かった」、「寂しい感じがした」とかが伝わったら嬉しいです。何かを心で感じてもらうことができたら、私の試みは大成功です。

なお七五訳に定形はありません。例えば松下緑さんは七＋五文字の句と七＋七文字の句混じり、横山悠太さんは全句七＋七文字でこの詩を訳されています。私は今回、武部利夫さんに倣って一句十二文字のひらがな分かち書きに訳しました。ただ五＋七文字だと暗い印象になるため、明るい印象になる七＋五文字としました。

■韻について

李白のこの詩は五言古詩という形式で、前半は「親、人、身、春」、後半は「乱、散、漢」で押韻されています。

七五調の「うた」には和歌（短歌）や俳句がありますが、これらと漢詩の大きな違いに「韻」があります。今回は七五調に作りつつ韻も踏んでみました。前半は「ひとりざけ、つきとかげ、おれのまね、はなみざけ」の「ae」、後半は「みぎひだり、ちどりあし、ばらばらに、またじかい」の「ai」が押韻箇所です。

九句目、李白は押韻していませんが、母音を重ねる畳韻語で音の面白さを工夫しています。現代語中国語でいう「徘徊(pái huái)」の「ái」がそれです。また十句目の「凌乱(líng luàn)」は子音「l」を重ねる双声語で、こちらも音が工夫されています。今回は九句、十句セットで音の面白さを表現することとし、合わせて「ae」→「ai」の韻の変更を明示する効果を狙うことにしました。

■漢詩の解説①　～背景編～

求職中だった李白を、詩人で大官の賀知章が「謫仙人」と言って褒めあげたというエピソードがあります。その影響か、742年、李白は人生初、念願の宮中内定をもらい玄宗皇帝の元で翰林供奉の職に就きます。42歳の秋に玄宗皇帝にまみえますが、44歳の時には追放されてしまいます。この詩は追放直前、44歳の作と言われています。

■漢詩の解説②　～内容編～

【前半】

せっかくの花盛りに一人です。玄宗皇帝や楊貴妃の前で、スター歌手李亀年によって披露された「清平調詞」と比べ、余りにも寂しい様子です。既に孤立していたか、自ら「アイツらと飲めるか」としたのか、その両方か、陶淵明に倣って影と飲むことにします。影も月も飲み友達としてはイマイチですが、それでも「今この春を楽しもう」とうたいます。具体的には「花見で一杯」です。

さて「おひとり様最高！」と思っていれば、誰かを誘ったりしませんよね。前半は孤独感が表現されていると思います。ただ八句目は「おもしろきこともなき世をおもしろく」に通じる心を感じます。

【後半】

歌に舞、興がのって来たんですね。自分が動いてそう見えることを、月や影の動きだと言っているところにおかしみがあります。

十一句目、どう見ても酒が回ってますが「醒時」です。対句の都合か、李白が大酒飲みだからか「酔いの回らないうち、正気のうち」らしいです。

十二句目の「酔後」は『月下独酌その三』にも登場します。曰く「酔った後は天も地もなく、正体なくばったりひとり枕につき、我が身があるかないかも知らない。これが一番楽しい（醉後失天地 / 兀然就孤枕/不知有吾身/此乐最为甚）」、また別の詩に「おれは酔って眠くなったから、君はひとまず帰ってくれ（我醉欲眠卿且去）」とあります。なるほど「酔」は眠気とセットで、李白は「分散」に好意的なんですね。

【ラスト二句】

「無情遊」をある資料は「感情をもたないもの、人ではないものとの交遊」と語釈します。またある資料は、「『無情』というのは心遣いや気配りがいらないこと、月や影も感情がないので人間同士のような変な心遣いがいらず、後腐れもない」とします。「無情と交遊」なのか「無情な交遊」なのかはさておき、月に感情がないことも、月と自分との間にしがらみがないことも、当たり前のことです。

なぜそんな当たり前のことを改めて言うのでしょう。私には、裏があるにように思えてなりません。つまり「無情の遊」は「有情の遊」を想定している、暗示しているように見えるということです。例えば「李白には感情があるんだよ、誰かと一緒に飲みたいんだよ、一緒に楽しみたいんだよ」とか「しがらみがしんどい」とかいうことですね。

しかも「無情遊」を「永結」です。「交遊」を「永遠に結び」なので、つまり「ズッ友」（＝ずっと友達）です。もしや短い関係（わずか三年足らずの宮中生活）の匂わせか、とも思われてきます。それでも「寂しい」、「つらい」などとは言いません。二句目も「独り酒を酌んで、ともに飲む相手はいない」と客観の形式です。

その上で十四句目、新天地・天の川をうたうわけです。身近に捉えるなら「今が」を愚痴らず「新しいことをしたい」を口にする感じと思います。

さて、中国にはご馳走した側が次回ご馳走する風習があるそうです。つまり「今回は李白がホストで地上飲み」だったから、「次は月がホストで雲漢飲み」ということです。「雲漢」は仙境の連想を含む言葉なので、単に「天の川」というよりも「天の河原」と言った方が感じが近いかもしれません。しかも李白は「謫仙人」でしたね。つまり、仙人として会場まで飛んで行くよということです。

【総括】

飲まなきゃやってられない気分を華麗な李白ワールドで包んだ空元気の詩だと思いました。

■終わりに

私は中国語ができません。この素晴らしい詩を伝え、また訳し続けてきた先人に、ここまで読んで頂いたあなたに、改めて感謝します。

振り返ると、この詩との出会いは耳からでした。読むのは大変という方にも聞いて楽しんでもらえたらいいなと思っています。現在、自作の七五訳に曲をつけようとしています。完成したら歌って頂けると嬉しいです。

百度百科免費用配図

永遠の妖精オードリー・ヘップバーン

和田　宏

〈ローマの休日〉

映画『ローマの休日』(ROMAN HOLIDAY)は、アン王女役を演じた無名の女優オードリー・キャスリン・ヘップバーン・ラストン（1929 年～1993 年享年 63）を世界的に有名な俳優にした映画である。

私は、1969年(昭和44年)春、大学を出て、初任地の NHK 松山放送局記者として赴任したある日、毎日新聞の新人記者 M 君と二人で、『ローマの休日』を見た。見終わって、映画館から出て来た時、私は、“な～んだ、あのアメリカ人新聞記者ジョー・ブラッドレーと言う奴は！ 一緒に一日中、ローマ市内を遊び回ったアン王女について、特ダネ記事が書けたのに、書かないなんて、記者の風上にも置けない野郎だ！”と、口にしたのだ。そしたら、慶応義塾大学のクラブ活動でボクシング部の重量級だった大男の M 君が、“和田ー、黙ってろ。俺は今、映画の余韻に浸っているんだ。”と言ったので、むくつけき大男の思いもよらぬ優しい言葉に驚き、逆に自らの感情の乏しさを思い知った。57年前の M 君とのやりとりを、今でも鮮明に思い出す。

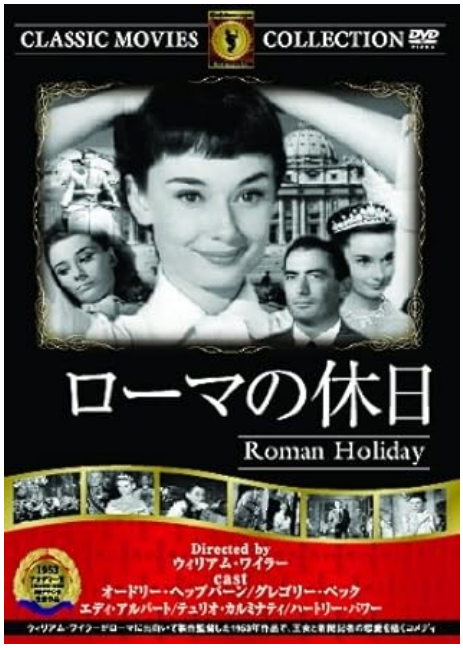
1953 年にアメリカで公開された『ローマの休日』という映画は、ローマを親善訪問したヨーロッパのとある小国のアン王女が、滞在していた大使館を夜中に抜け出し、偶然出会ったアメリカ人新聞記者ジョー・ブラッドレーと、1 日限りの淡い恋と冒険を楽しむロマンティック・コメディであり、ローマにある観光名所もよく紹介されている。

アン王女は、連日続く陳腐な公務に飽き飽きして、夜中にそっと大使館の窓から外に出たが、公園で眠り込んでしまったところ、たまたま通りかかったジョーが見つけ、自宅に連れて来て寝かせる。翌朝になって、新聞に載っている記事の顔写真を見て、彼女がアン王女だと気づいて驚く。が、ジョーは気付かないふりをして、王女の知られざる私的な側面を特ダネ記事にしようと考え、丸一日彼女を引き連れて、ローマ市内を見物して回る。アン王女は、脱走がうまく行ったと大喜びで、買い物をしたり、スペイン広場でジェラートを頬張ったり、理髪店で頭髪を短く切ってしまったり、無邪気なおてんば娘として一日を過ごす。

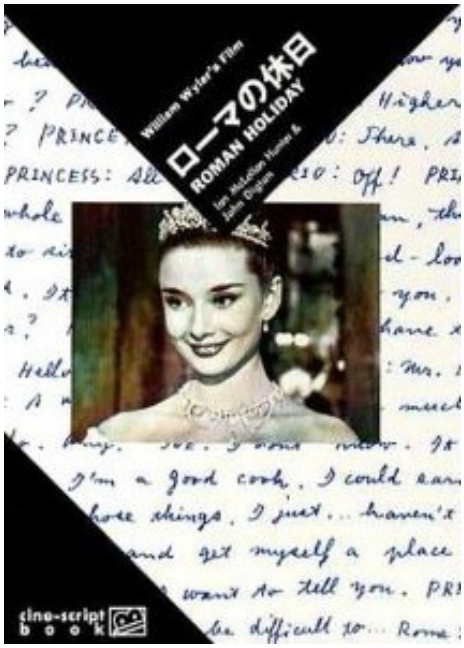
〈真実の口〉

嘘をついている人が、その口に手を入れると、抜く時に手首を食い千切られるという言い伝えがある“真実の口”では、ジョーがその口に手を差し入れ、本当に挟まれたかのように“大変だ！”と叫び、腕を引き抜いたところ、手首から先が無く、アン王女は悲鳴を上げた。ジョーが、手首が噛み千切られたかのように服の袖で手を隠したのだが、直ぐに手首を出した。冗談事に騙されたアン王女が、ジョーの胸を叩くシーンがあるが、このシーンは、シナリオには書かれていなかったもので、ジョー役を演じた男優グレゴリー・ペック自身のアドリブ演技だったのである。

実は、この“真実の口”が、日本の六本木ヒルズや小田原駅前東通り商店街にもある。「わんりぃ誌」の読者は一度お出掛



「ローマの休日」の DVD



「ローマの休日」のシナリオ(cine-script bookより)

けして、自分が嘘つきかどうか試してみてはいかがだろうか？（笑）

映画『ローマの休日』のラストシーンでは、王女の記者会見が翌日開かれ、ジョーらも報道陣として参加する。そこで、王女が気付き、初めてジョーの正体を知ることになった。

六本木ヒルズにある「真実の口」

小田原東通り商店街にある「真実の口」

最後の質問として、ある記者が「ご訪問された中で一番お気に召した訪問地はどちらでしょうか？」と訊くと、少し逡巡した後、病気で動けなかった筈の王女は、ジョーの顔を見つめながら「ローマです。何と言ってもローマです。この地を訪れたことを思い出として大切にするでしょう、私が生きている限り。(Rome! By all means, Rome. I will cherish my visit here in memory as long as I live.)」と、力を込めて言う。この英語が綺麗だ！

オードリーは、全く新しい不思議な魅力、王女の品格と、行動的なおてんば娘の魅力を兼ね備えた女優と評価された。この映画でアカデミー主演女優賞を受賞している。筆者は、この映画が気に入り、DVDとシナリオ本を購入して、一生懸命に英語の勉強をした。

〈戦争の苦しみ〉

オードリーは世界経済恐慌の起きた1929年(昭和4年)、ベルギーのブリュッセルで、オーストリア系イギリス人ジョゼフ・ヴィクター・アンソニー・ラストンとオランダ人貴族のエラとの間に生まれた。

父親ジョゼフは幼少期をベルギー、イングランドで過ごし、オードリーの母エラと再婚する以前に、オランダ領東インドで知り合ったオランダ人女性と結婚していたことがあった。

母親エラの父親は男爵で1910年から1920年にかけてアーネム市長を、1921年から1928年にかけてスリナム総督を務めた政治家で、エラの母親もオランダ貴族の出身だった。エラには最初の夫との間に息子たちがいた。（ウイキペディア）

ジョゼフは過激なナチズムの信奉者となり、オードリーが6歳の 1935 年5月に家庭を捨てて出て行った。

ジョゼフが家庭を捨てた後、エラは子供たちと故郷のアーネムへと戻った。その後、イギリスに移住したので、幼いオードリーはイギリスのイーラム(Elham)村の小さな私立女学校に入学して、バレエのレッスンにも通い始めた。

第二次世界大戦が勃発する直前の1939年前半に、エラは再度アーネムへの帰郷を決めた。オランダは、再び起ころうとしていた世界大戦でも中立を保って、ドイツからの侵略を免れることができると思われていたためである。オードリーは公立学校に編入学し、1941年からはアーネム音楽院に通い、ウィニャ・マローヴァのもとでバレエを学んだ。

1940年にドイツがオランダに侵攻し、ドイツ占領下では、オードリーという「イギリス風の響きを持つ」名は危険だと母エラは考え、オードリーはエッダ・ファン・ヘームストラと偽名を名乗った。（ウイキペディア）

〈バレリーナーへの夢を諦めて〉

第2次世界大戦が終わり、オードリーはバレエ学校に入学し、レッスンを再開した。しかし、20歳になっていた身長170センチのオードリーは、バレエ教師から“ペアを組んで踊る男性より少し低くないといけないのに、あなたの身長は高過ぎるの。それに身体が細過ぎるのよ”とプリマ・バレリーナにはなれないと告げられた。オードリーは、さめざめと泣いた。プリマになれないのなら、バレエの道をきっぱり諦めようと決断するしかなかった。

人生の大きな分かれ道に立たされた彼女は、写真家のモデルを引き受けたり、ミュージカルのオーディションを受けたり、やれることはどんどん挑戦した。

ファッション雑誌を眺めては鏡の前に立って研究

を重ね、服装の色を考え、肩パットは骨ばった体形を強調するので着けず、かかとの低い靴を履いた。端役ではあったが、徐々にミュージカルや映画の出演依頼が届くようになった。

映画『ローマの休日』が封切られた翌年に、父親ジョゼフがアイルランドに住んでいることを探し出し、ジョゼフの住む家を尋ねた。6歳のオードリーを捨てて出て行って以来、実に23年ぶりの再会だった。狭く、みすぼらしアパートには、ジョゼフと、オードリーとほぼ同年齢の女性が部屋の隅に居た。

ジョゼフは、戦時中ユダヤ人を迫害したナチスの協力者だったことや刑務所に入っていたことなどが明るみに出れば、新進女優である娘のスキャンダルになると考え、敢えて身を隠していたのだと自己弁護した。オードリーは、父親の言うことに納得し、90歳で亡くなるまで生活費を送り続けた。

〈映画界での業績と国際貢献〉

オードリーはその後、「麗しのサブリナ」、「戦争と平和」、「昼下がりの情事」、「ティファニーで朝食を」、「シャレード」、「マイフェアレデイ」、「暗くなるまで待って」などの名作に出演し、数々の賞を受賞し、米国映画協会が選定した「最も偉大な女優50選」では第3位になっている。

1992年、ソマリアで栄養不良の子どもを抱く、オードリー ユニセフ親善大使　（日本ユニセフHP）

オードリーはハリウッドから遠ざかった晩年においても、アカデミー授賞式では何度もプレゼンターを務めている。死後に受けた賞としては、1993年のジーン・ハーショルト友愛賞、グラミー賞、エミー賞などがある。

オードリーは、1988年から5年間、UNICEF（国連児童基金）の親善大使としてアフリカ、アジア、南米など世界各地へ 50 回以上の視察訪問を敢行し、飢餓や貧困に苦しむ子供たちの救済活動に心血を注いだ。

第2次世界大戦中に自身が体験した極度の栄養失調の経験から、世界の子供たちのために人生のすべてを捧げる、その愛情深い姿は、“生きる天使”と称された。

オードリーは3度、来日した。1回目は1983年、友人ジバンシィのサロン開設 30 周年記念のショーのため。2回目は1987年、ユニセフ主催の両国国技館でのチャリティーコンサートでの前説のため。最後は1990年にアメリカのテレビ番組『庭園紀行』の「日本の庭園」編撮影のためであった。

京都の西芳寺(苔寺)について、“この庭園には、何千年という日本の歴史と日本という国の神秘性そのものがある。ここに一歩足を踏み入れた瞬間、いにしえからの格式と永遠の魅力に包まれて、まるで魔法にかけられたようになり、何度でもこの庭を訪れたいと思う。次世代の人々へこの美しい地球を引き継ぐために、ひたむきに取り組んできた証である”と述べている。

1991年、湾岸戦争が起きた時は、反戦のスピーチをしている。1992年にアメリカの文民最高勲章である「大統領自由勲章」を授与されている。最期まで「愛すること」の大切さを世界に投げかけ続け、その姿勢は現在も高く評価されている。

オードリー・ヘップバーンは、1993年1月20日、スイスの自宅で家族に見守られながら、63歳で黄泉の国へ旅立った。エデンの園でもエンジェルとして生き続けていることだろう。　（完）

■参考：

山口路子著，オードリー・ヘップバーンという生き方，KADOKAWA，2012年

山口路子著，オードリー・ヘップバーンの言葉，大和書房，2016年

あんなことこんなこと思い思いに

みんなの広場

●徒然なるままに　　後藤　芳昭

「七人殺される」の話

物騒なテーマですが、中国の現代ミステリー作家・周浩暉の小説の作品名です。

新聞の文化欄で紹介されていたので読んでみました。

ふだんミステリー系の本は読みませんが、これは、７人が次々に殺されていく展開が面白く、わんりぃの読者諸氏にもおすすめしたいと思いました。

私は、刑事と犯人との間で繰り広げられる息詰まる展開に心を奪われました。

中国のミステリー作家といえば紫金陳。「推理之王１：無証之罪」を原作にしたテレビドラマは衝撃的でした。すべての犯罪は物証、人証で決まるのを逆手にとって、真の犯人、犯罪とは何か？ を世に問うた傑作です。こちらも一人の有能刑事と犯人とのし烈な駆け引きが見ものでした。

中国の小説といえば、三国志や水滸伝、金瓶梅、紅楼夢を思いおこしますが現代中国のミステリー部門でも優れた作品があるとの話です。

なお、ご参考までに

■「7人殺される」，周浩暉(著)，阿井幸作(訳)，（ハーパーBOOKS)，2024 年，1700 円

薬膳座学と料理講習会のご案内

わんりぃは、6 月 11 日（木）に夏の薬膳料理講習会を開催します。テーマは「夏の厳しい暑さを乗り切る薬膳料理」です。その講習会に先立ち、薬膳の基本、夏の薬膳料理に関する基礎知識を勉強する座学を 4 月 16 日（木）に開きます。

薬膳を生み出した中医（中国医学）の基本的な考え方を知り、薬膳を日常に取り入れる工夫を勉強しましょう。

▶ 夏の薬膳料理座学 ◀

●**日時**：4 月 16 日（木）10：30～
●**場所**：玉川学園コミュニティセンター
●**会費**：500 円
●**目的**：「薬膳の基本的考え方」の勉強
●**申込**：4 月 15 日代表まで（下記）

～～～～～～～～～～～

▶夏の薬膳料理講習会 ◀

●**日時**：6 月 11 日（木）10：00～
●**場所**：麻生市民館　料理室
●**会費**：2000 円
●**申込**：6 月 5 日迄に寺西代表（下記）へ
●**連絡先**：町田市三輪緑山 2-18-19　寺西方
電話　　044－986―4195
E メール：t_taizan@yahoo.co.jp）

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

花の雲
　鐘は上野か浅草か

松尾芭蕉

shàng yě qiǎn cǎo hé fāng sì
上 野 浅 草 何 方 寺

huā yún shēn chù gǔ zhōng shēng
花 云 深 処 古 钟 声

【中国の笑い話-66】「365 夜笑話」より　　翻訳:有為楠君代

第 237 話　要るか要らないか

エペンディが床屋をやっていた時、金持ちが散髪にやって来て、いつも金を払わないので、エペンディは、彼を懲らしめてやろうと考えました。

ある日、またあの金持ちがやって来たので、エペンディは金持ちの散髪を終わり、顔をそりながら、眉毛の周りを剃る時に、金持ちに訊きました:「眉毛はいりますか？」

金持ちは:「もちろんいるとも！」といいました。

エペンディはそれを聞くと:「眉毛が必要だと仰るなら、差し上げましょう」と言いながら、両方の眉毛をじょりじょりと剃り落して、金持ちの手に持たせました。

暫くして、髭の近くを剃る時、エペンディはまた尋ねました:「髭は要りますか？」

金持ちは考えました。「もし私が要ると言ったら、また髭を剃ってしまって、私の手に持たせるだろう。ここは《要らない》という方が良いだろう」

それで金持ちは言いました:「髭は要らないよ」

エペンディは:「髭は要らないのですね…」といって、髭をすっかり剃ってしまいました。

金持ちが鏡を見ると、そこにはつるつるでひょうたんみたいな自分の顔があったので、かんかんに怒って言いました:「なんでこんな顔にしてしまったんだ！」

エペンディは:「お客さん、私は眉毛や髭が必要かどうか先に伺いましたよね。私はあなたがおっしゃる通りに剃ったまでですよ」

金持ちは、家まで走って帰って長い間、家から出ずに人目を避けて暮らしました。

第 238 話　三つの格言

ある日、エペンディはお金を稼ごうと思い、縄を一本持って街の運搬人足のたまり場へ出かけて行きました。

暫くすると、一人の人が来て言いました:「ここに食器を入れた箱があるが、これを私の家まで運んでくれた者には、世の中で貴重な 3 つの格言を授けようと思うんだが」

運搬人足たちはみな、「この人は信用できないぞ。係りにならない方が良い」と考えて、座り込んだまま相手にしませんでした。

しかし、エペンディは考えました:「銭なんてものはいつでも稼げる。世の中の貴重な格言なんて簡単には得られない。これは一つ聞いて見識を高めよう」

エペンディは運搬を引き受け、箱をもって箱の主人と歩き始めました。

しばらく歩いてから、エペンディは主人に訊きました:「最初の格言は何ですか？」

箱の主人は言った:「誰かが『満腹より空腹の方がましだ』と言っても信じない方が良い」

エペンディ:「それはいい言葉ですね」

暫く行くと、エペンディはまた主人にいいました:「二番目の言葉を教えてくださいよ」

主人:「もし誰かが『馬に乗るより歩く方が楽だ』と言っても、決して信じてはいけない」

エペンディは「なかなかいい言葉だ」と独り言を言いました。

箱の持ち主の家に近づいたとき、エペンディが訊きました:「ご主人、最後の格言は何ですか？」

主人は言いました:「誰かが『あんたよりもっと利口な人がいる』と言ったとしても、決して信じられないだろう」

エペンディは、両手に持った縄を緩めて、地面に落ちた箱を指さしながら言いました:「もし誰かが『箱の中の食器は割れていない』と言ったとしても、あなたは決して信じないでしょう」

【わんりぃの催し】

♫ ボイス･トレで日本語の歌を歌おう！

身体の力を抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター !!
＊動きやすい服装でご参加ください。

● **会場**：玉川学園コミュニティーC 多目的室 3
● **日時**：４月 14 日（火） 10：00～11：30
５月 19 日（火） 10：00～11；30
● **講師**：Emme［エメ］（歌手）
● **会費**：2,000 円（講師謝礼・会場費）
● **定員**：15 名（原則として）
● **申込**：☎042-735-7187（鈴木）

～～～～～～～～～

∞∞わんりぃの中国語勉強会∞∞

●**場所**：鶴川市民センター
●**日時**：毎週火曜日　14：00～16：00
●**講師**：郁　唯（天津師範大学卒業）
●**会費**：5500 円（会場費・講師謝礼）
●**定員**：10 名（原則として）
●**申込**：柳田　☎090-4677-7793
e-mail:yanagita_hi@yahoo.co.jp

■定例会　代表宅

▼　４月１５日（水）13：45～
▼　５月１４日（木）13：45～

■‘わんりぃ’発送　三輪センター

▼　５月号　　５月１日（金）
▼　６月号　　未　定

☆☆ 編 集 後 記 ☆☆

日本では年度初めを 4 月に置いているので、4 月は始まりの月、3 月を終わりの月と認識する機会が多いですね。

前の年から準備を始めた桜のつぼみは、冬の寒さを体験することで冬眠から覚め、4 月の開花に向かって徐々につぼみを膨らませ、4 月になると満開になって、新しい年度の開始を知らせたものでした。小学校の校庭に植えられた桜は、枝一杯に花を付けて、新 1 年生の入学式に文字通り花を添えました。40 年ほど前までの関東地方の春の景色です。

それが今では、花を咲かせるのは卒業の季節、入学式には、時として若葉が新入生を祝うことになりました。

ここ半世紀の間の気候温暖化の軌跡です。

～～～～～～～～～～～

‘わんりぃ’は、新入会をいつでも歓迎いたします。

年会費：1800 円、入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりぃ
10 月以降の入会は、当年度会費 1000 円
■問合せ：044-986-4195（寺西）

‘わんりぃ’312 号の主な目次

薬膳のお話（12）……2
中国そぞろある記（7）……3
晩秋のカラコルムにて（13）…… 5
四川・カム紀行（4） …… 7
台北雨のハイキング（2）…… 9
漢詩（うた）の心を日本語で（1）……12
オードリー・ヘップバーン ……15
みんなの広場 ……18
中国の笑い話（66）……19
‘わんりぃ’の催し・お知らせ……20